

# 私にも 言わせて! 第124回

## 行政医師になって日々感じる充実感



福島県中保健福祉事務所  
健康増進課 科長  
**安達 優真**

福島県二本松市出身。2011年3月山形大学医学部医学科卒業。一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院での初期臨床研修、呼吸器内科勤務を経て、2021年10月より福島県の行政医師となる。2022年4月より現職。

呼吸器内科の臨床医として約10年市中病院で勤務した後、福島県の行政医師へ転向しました。想像以上に楽しく充実した毎日を過ごすことができている。今回は主に行政医師を選択肢として考えている皆さまへその魅力をお伝えできればと思います。

### はじめに

私は前職、市中病院の呼吸器内科医として働いていました。肺がん、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、誤嚥性肺炎等の疾患は完治するものではないため、終末期の過ごし方を含めて治療を考えていく必要があります。終末期が近づいてきている旨を私から説明すると、多くの患者さんやご家族は「○○をしたい(させてあげたい)」とお話しされます。その希望をどのように実現可能な形にしていくかは主治医チームの腕の見せ所である一方で(今からわずか数か月前)数年前の全身状態であっ

たならば、何のハードルもなく叶えられたことなのになあ…と考えている自分もいました。さらに、COVID-19流行による現場の混乱を経験したことで、「人々が命の大切さ(予防の大切さを含む)に早く気づき、悔いのない人生を過ごせるような支援をしたい」「社会のシステムを整備することで、病気になる前の人を含めたより多くの人々の力になれるのではないか」という2つの思いが強くなり、行政医師になることを決意しました。

### 行政医師に転向して 分かった「こんなこと」

さて、ここからは行政医師の日常において、就職前に想像していたことと違ったことをランキング形式で発表していきたいと思えます。少しでも行政医師を身近に感じていただければ幸いです。

### 「第5位」面白い業界用語がたくさんある

私はまず県庁に配属となったのですが、初日の最初に参加した会議で「ポンチ」という意味不明な単語が飛び交っており衝撃を受けました。(まさかフルーツポンチのことではないだろうし…おそらく何かを説明する図や絵のようなものを指すのだろうけど…)と必死に思いを巡らせました。このような業界用語は多々あり、その都度違う文化の職場にきたのだと実感します。独特の味のある言葉が多く、

### が生かせる

行政医師になる前、臨床医の仕事とはあらゆる面においてまったく異なるのだろうなあと思っていました。もともと私はマルチタスクがこなせるほど器用なタイプではないため、行政医師になるなら一度臨床医はすっぱり辞めて、新しい世界に集中しようと考えていました。その際、もし行政が合わなかったらどうしよう…という葛藤は当然ありましたが、それは杞憂(杞憂)でした。私が行政に来て行った仕事の一部を羅列すると、県(本庁)の新型コロナウイルス感染症対策本部における医療体制の構築、クラスター対策と支援。保健所へ異動してからはより地域や現場に即した新型コロナウイルス感染症対応に加えて、働く人の健康づくり(生活習慣病対策など)、鳥インフルエンザ発生への対応などですが、臨床医時代に培った知識と経験が生かされたため「どこから手を付けてよいか、どのように対応したらよいか分からない」ということはありませんでした。

### 「第1位」どの仕事もやりがいがある

行政機関の仕事は国民(住民)のニーズに応えるためにあるので、必要な仕事というものは一切ありません。どの仕事も重要であり、すぐには解決策が見つからないものも多くあるため、やりがいだらけです。臨床医時代には目の前の患者さんやご家族へ対応する状況が多くありましたが、行政では組織の力を生かして広い地域に大きな流れを生み出せる可能性があることも魅力です。私自身、まだまだ駆け出しですが、今後あらゆる業務に前向きに取り組んでいきたいと考えています。

### おわりに

最後になりましたが、行政に来てから右も左も分からなかった私を指導し、支え、見守り続けてくださったっている県庁や保健所職員の皆さまには感謝しかありません。本当にありがとうございます。

で、意識的に日中も休めるときに休むようにしていました。1日の中で「起きる↓日中は職場で仕事↓帰宅後の時間↓寝る」が確立することで、業務以外の予定も立てやすくなりました。逆に、臨床医時代の私は当直明けに相当不機嫌になりながら周囲のスタッフに当たり散らしながら業務を行っていたのではないかと…と思いきり、その都度申し訳ない気持ちになります。

### 「第3位」研修が充実している

この場においてぜひ紹介しておきたいのが、国立保健医療科学院(以下、「科学院」)です。恥ずかしながら私は行政医師になるまで、科学院の存在をまったく知りませんでした。その名の通り、埼玉県和光市にある保健医療・生活衛生・社会福祉に関する国の研修・研究機関なのですが、ここで私は2022年4月上旬から7月上旬までの3か月間研修を受けました。行政に来て半年がたったばかりの当時の私は、県からの指示を受け、あらゆる知識が皆無のまま取りあえず何とかなるだろうと樂觀しながら研修へ向かいました。こ

の3か月間がとにかく楽しかった! 素晴らしい先生方から今後の業務に必要な新しい知識は学べるし、全国から同じ志を持った楽しく優秀で素敵な同期の仲間と出会えるし! 科学院の魅力はともここまでは語り尽くせないので、ぜひ行政医師となって味わってみてください。ただ一点、科学院での研修はオンラインで行う期間が約2か月あったのですが、所属における業務と並行して研修を受けていた同期は非常に大変そうでした。私はありがたいことに、研修に完全集中できる環境をつくっていただけたため、充実した時間を過ごせました。

科学院のほかにも、さまざまな対面研修やオンライン研修の案内があるので、どれも有名な先生方の面白いものばかりです(しかも無料のことも多い)。自身の担当業務に関する研修であれば勤務時間中に受講することも多く、至れり尽くせりです。研修の充実度に関しては、行政に来る前にはまったく想像できていませんでした。

### 「第2位」臨床医時代の知識と経験